

●○○ 第243回あすか倶楽部 定例会 ●○○

テーマ：「人々や企業、行政との協業による森づくり活動」について

講師：特定非営利活動法人 森のライフスタイル研究所 代表理事所長 竹垣 英信 氏

日時：2024年3月16日（土）14：00～17：00

場所：日土地内幸町ビル3階 （一社）大日本水産会 大会議室

## 内容

近年、里地里山の多くは、人口の減少や高齢化の進行、産業構造の変化により、里山林や野草地などの利用を通じた自然資源の循環が少なくなることで、大きな環境変化を受け、里地里山における生物多様性は、質と量の両面から劣化が懸念されています。

森のライフスタイル研究所は、木質バイオマスの利用推進に注力していましたが2009年より人々や企業、行政との協業による森づくり活動を展開しています。

八王子市と活動協定を締結した本田技研工業(株)の取り組みを参考に、企業との協業による森づくり活動についてお話しを伺います。

## 講義内容

### 1. 日本の森林の状況

日本の森林面積は、国土の約7割

林業従事者は、約5万人

木を植えてから50年後に収益が上がる

### 2. 森林ボランティアとは

森林、雑木林、里地里山の保全活動

良い環境を次世代へバトンタッチし、地球を長持ちさせるための活動

\*里地里山：原始的な自然と都市との中間に位置し、集落とそれを取り巻く二次林、それらと混在する農地、ため池、草原などで構成される地域

### 3. 森林ボランティアの状況

・森林ボランティア団体は増えているものの、荒れた森林環境に変化は無い。

マニアの掘り起こしは進んだが、メジャーになっていない、一般化していない。

参加年齢が高齢化してきている。

食わず嫌いな人が多い→一般の人を巻き込み、一般化する事が重要。

ボランティアの行為に対する満足感を、どう醸成するかが重要。

・消費者と森林・里山とのコミュニケーションの機会、濃度が低い。

森林保全・森林保護業界と一般社会との乖離が発生している。

課題解決のために、消費者と森林・里山のコミュニケーション機会・濃度を深める必要有り。

・消費者だけでなく、一般企業への歩み寄りも必須。

SDGs活動について、森を中心に考えると、色々な事が関連してくる。

森が荒れた結果、その河口に有る気仙沼の牡蠣養殖で、牡蠣の生育が悪くなった。  
森を育む「森は海の恋人」運動を展開。

・森林活動の効果

森林活動を行うとストレスが減少し、その効果が一週間持続すると言われている。

<Q&A>

Q：年寄りの木はCO2を吸収する力が落ちるとの事、また、杉花粉の出ない杉が有るとの事だが、杉の植え替えの進捗状況を教えて欲しい。

A：東京都の場合は、山の高い場所になるので、なかなか進んでいない。  
また、まだ苗を扱っているところが少なく、売値が高い。  
更に、本当に杉花粉が出ないのかの検証が十分でない。

Q：どういう業種の企業が、森林ボランティア活動をやりたいと考えているのか？会社の業種は関係しているのか？

A：今は、どんな企業も取り組んで来ている。活動をしたい企業には、偏りは無い。

Q：森林ボランティア活動はどのように行っているのか？

A：新型コロナの前は、7時頃に新宿に集まり、日帰りで活動していた。  
個人負担は3000円で、バス代と昼食代を賄っている。  
土日での開催。  
今は、企業からの引き合いが多く、個人の募集には手が回っていない。

Q：森の中には、色々な害獣が出るとの事。

その理由として、里山が減ったとの事だが、どういう事なのか？

A：昔は、人間が山に入っていた。

木を切ったりしていて、その結果、人間と動物の棲み分けが出来ていた。

人間が山に入ると、その臭いが付いて、動物が避けていた為、自然に人間と動物の緩衝帯が出来ていた。

今は人間が山に入らなくなり、その緩衝帯が無くなって来た。

Q：NPO法人は、何人で活動しているのか？

A：法人としての運営は3人。

活動の内容によって、必要な専門家を集めて活動している。

Q：活動場所については、どこと話をするのか？

A：行政と話している。

例えば、千葉県と話すとか。

Q：個人林の荒廃について、どう考えるか？

A：税金の問題が有り、対応は難しい。

企業は、公共性が無くなる為、個人林の保全を嫌う。

Q：自分が親から九州の山奥を相続したが、どうしたものか？

A：日本の森林所有者は、小さい単位が多い。

国は、集約化する森林計画を立てていて、それを使う方法が有る。

地元の森林組合に聞いてみると良い。

Q：里地里山への取り組みは、高齢化が進んでいるとの事だが、今後はどうなっていくのか？

A：全ての里地里山に手を入れる事は出来ない。

そうすると、その環境に合った自然に帰っていく。

よって、手を入れられる場所と、そうでない場所とで、二極化していく。

Q：竹垣さんの活動は、森林全体の取り組みと共に、里地里山を対象とし、そこに企業を巻き込んで活動をしている。企業を巻き込む理由はなにか？

A：山の林業は、今も普通に活動している。

しかし、住んでいるところに近い森林はそうではなく、そういう森林への取り組みが重要だと考えている。

Q：その森林への取り組みに、企業と組んで活動するのが、効率が良いとの事なのか？

A：その通り。

Q：森林保全は、維持が重要。

ボランティアを継続して貰うには、参加をするとピンバッジを出すなど、満足感を醸成する工夫が必要だと考える。

A：一般の人を森林ボランティアに連れて行く場合、我々は、旅行代理店をしているかのような活動になる。更に今は、熱中症などに成ったら問題に成るので、野外活動は春や秋にするとか、必ず救命救急士を同行させるとかが必要。

以上

報告者 17期 加藤 祐介